

ヤナギダコ (みずだこ)



生態的特徴等

【生態】 分布は北海道から茨城県沖の水深 100m 以深の海域である。常磐海域での産卵期は7～8月で、2歳で約 1 kg、3歳で 2 kg 以上に成長し、大きなものでは5 kg に達する。寿命は3年以上と推定されるが、生態的知見は少なく、生活史は不明な点が多い。

【漁法と盛漁期】 主に底曳網で漁獲され、平潟や大津、久慈漁港で水揚げが多い。漁期（9月～翌年6月）を通して水揚げされるが、冬季の水揚げは少ない。本県の市場ではヤナギダコのことを「みずだこ」と呼ぶが、標準和名ミズダコとは別種である。

【利用】 茹でた状態で流通・食されることが多い。

資源水準は低位、動向は横ばい傾向

（漁獲量）主に底曳網漁業で漁獲されるため、暦年（1～12月）ではなく漁期（9月～翌年6月）で集計した。H14～18年は400トンを超えていたが、H22年以降は300トンを下回り、R6年は57トンと減少傾向が続いている（図1）。

（水準と動向）資源水準は、過去の底曳網の漁獲量から推定したCPUE（kg/隻日）の推移から「低位」、動向は、直近5漁期のCPUEの傾向から「横ばい」とした（図2）。

水準



動向

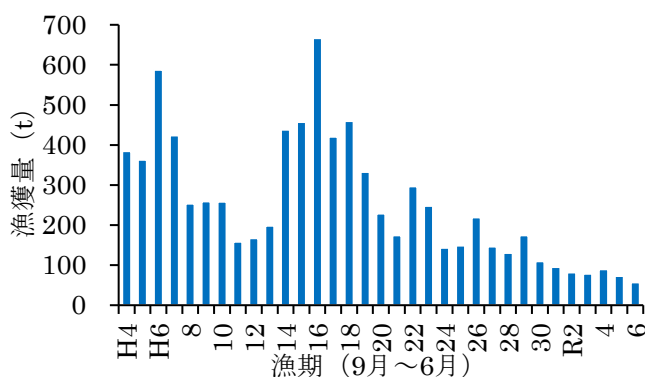
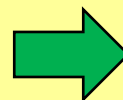


図2 ヤナギダコの漁獲量(属地、水試システム)

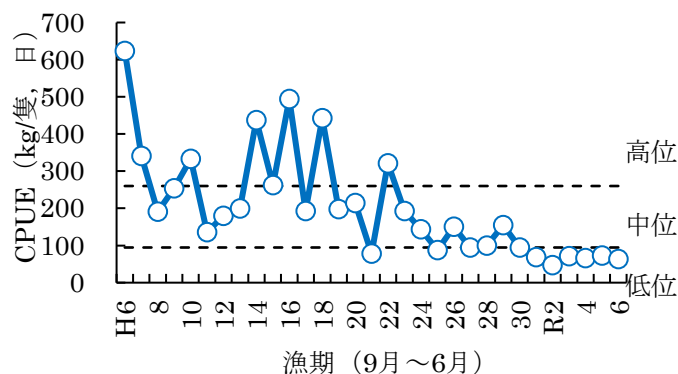


図3 ヤナギダコのCPUE (底曳、茨城県代表地区)

【全国の漁獲動向】

主な産地は北海道、福島などで、北海道では数千トンの水揚げがある。